



経口内視鏡的筋層切開術における腹腔穿刺を要する気腹をきたす要因に関する遡及的解析

2018年10月1日から2023年12月31日までに日本医科大学付属病院消化器・肝臓内科にて経口内視鏡的筋層切開術を受けられた患者さん。

研究協力をお願い

当科では「経口内視鏡的筋層切開術における腹腔穿刺を要する気腹をきたす要因に関する遡及的解析」という研究を倫理委員会の承認並びに院長の許可のもと、倫理指針及び法令を遵守して行います。この研究は、2018年10月1日から2023年12月31日までに日本医科大学付属病院消化器・肝臓内科にて経口内視鏡的筋層切開術を受けられた患者さんの治療成績を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただかずに、この掲示によるお知らせをもって実施いたします。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：経口内視鏡的筋層切開術における腹腔穿刺を要する気腹をきたす要因に関する遡及的解析
研究期間：研究実施許可日から2024年9月30日
研究責任者：日本医科大学付属病院 消化器・肝臓内科 准教授 後藤 修

(2) 研究の意義、目的について

本研究の目的は、当院消化器・肝臓内科で経口内視鏡的筋層切開術を行った患者さんを、腹腔穿刺(お腹に針を刺して脱気すること)を要した群および不要であった群に分類し、その特徴や術中所見を比較することで、気腹(お腹に気体が溜まることを指し、経口内視鏡的筋層切開術では6.8%~53.7%に生じるとされています)をきたす要因を解析し、気腹時に適切な処置を行うための指標を明らかにすることです。本研究を行うことで、気腹時に的確なタイミングで減圧を図ることが可能となり、より安全な治療を提供できることが期待できるという点で有意義であると考えられます。

(3) 研究の方法について(研究に用いる試料・情報の種類)

2018年10月1日から2023年12月31日までに日本医科大学付属病院消化器・肝臓内科にて経口内視鏡的筋層切開術を受けられた患者さんの情報を診療録の情報から抽出して評価します。
この研究は、患者さんの以下の試料・情報を用いて行われます。
試料：なし
情報：年齢、性別、身長、体重、疾患情報、内視鏡所見、手術記録、麻酔記録など

(4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用いたしません。また、研究発表時にも個人情報は使用いたしません。その他、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(文部科学省・厚生労働省・経済産業省)」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表いたします。

(6) 問い合わせ等の連絡先

日本医科大学付属病院 消化器・肝臓内科 准教授 後藤 修
〒113-8603 東京都文京区千駄木1-1-5
電話番号：03-3822-2131(代表) 内線：6725
メールアドレス：o-goto@nms.ac.jp